

よしきい

2022年 秋号



干潟ふれあいゾーンで

目次

公園の風景

- ・干潟ふれあいゾーン 1
- ・あのシギ何シギ? 1
- ・シーから始めるツクツクボウシ . . . 1
- ラムサール登録への道 ⑤ 2

みんなの広場

- ・自然を愛する人たちが
作ったフォークソング 2

活動紹介

- ・いちばん楽しい観察会! 3
- ・ミニ講座でコンサート♪ 3
- ・ふれあいまつりに来てね(^)/ 3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

HP ashinokai.html.xdomain.jp

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさをご一緒に学び伝えていきませんか？



会員募集中！（高校生以上）

公園の風景

= 干潟ふれあいゾーン =



昨年6月にオープンしたビジターセンター前に広がる干潟ふれあいゾーンは猛暑もあり連日人気ですが、この夏さらに利用しやすくなりました！
リニューアルポイント：

- ① 潮だまり観察コーナーができたので、干潮時に取り残された生き物が観察できる？！
 - ② 岸に砂浜が出来たのでプライベートビーチ的なのんびり感が味わえる？！
 - ③ 広い洗い場ができたので全身ドベドベになっても安心！
- 是非トビハゼやカニたちと戯れに来てください♪



= あのシギ何シギ？ =



アオアシシギ

いよいよシギの季節がやってきた。世界的にも広く分布するチドリ目シギ科の鳥。公園へ飛来する彼らは、シベリアから北海道で繁殖後、冬を越すために東南アジアやオーストラリアへ長距離の渡りをする旅鳥で、その旅の途中で公園を訪れる。秋（8～10月）に多く見られ、今期初見は7月15日のアオアシシギだった。一口にシギといっても種類は非常に多く、当園では過去も含め33種類の飛来を確認している。

「鳴」と書く文字は奈良時代に日本で形成された国字ということで、新古今和歌集には西行法師の「心なき身にもあはれは知られけり鳴立つ沢の秋の夕暮れ」の和歌がある。平安末期、陸奥に下る途中の西行が神奈川県大磯の地で、世俗から離れた僧侶の身ではあるが、しみじみと情緒を感じたということ詠んだ歌である。

はてさてそれは何シギ？と検索してみると、イソシギ、アオアシシギ、タシギ、クサシギなど驚くほどいろいろな説がある。しかし、「沢」であることと「立つ」という言葉に注目すると、山地や山沿いにある溪流などに単独で暮らし、飛び立つ時「ジェッ」という声を発するアオシギではないかというのが当園長の推測。ともあれ誰も見たことのない800～900年も昔のことである。

= ジーから始めるツクツクボウシ =

その鳴き声を聞くと、「夏が終わるなあ…」と感じる人も多いと思いますが、実はツクツクボウシは7月半ばから鳴き始めています。にぎやかなクマゼミやアブラゼミがいなくなる8月の中旬から存在感を増すようですが、何と云ってもユニークなのはその音楽的でリズムカルな鳴き方ですね。

まず低めの「ジー」から始め、助走のような「ツクツク…」のあと「オーシ！」と弾みをつけるとお馴染みの「ツクツクボーシ、ツクツクボーシ」をテンポアップしながら10数回繰り返します。そのあと「ツクウィヨー、ツクウィヨー、ツクウィヨー、」と音量を落としていき「ジー」と鳴き終わります。



邪魔が入ったのか、何らかの事情があるのか、途中でふと鳴き止めたりすることもままありますが、基本的には同じリズムで鳴くツクツクボウシのひとりオーケストラを聞いていると、生命の神秘を感じませんか？

ラムサール登録への道 ⑤



ラムサール登録に向けて“葦の会”も様々な取り組みを行っています。今回はそれらの一部を3つの柱に沿ってご紹介します。

「保全・再生」：毎月1回のクロツラヘラサギの個体数調査、山口湾のゴミ拾いへの参加、山口湾保全のための募金箱設置、など。

「ワズユース」：山口湾の一部であるきらら浜自然観察公園でたのしくボランティア活動をして身も心もリフレッシュ！もちろん近海の美味しい魚介類もいただいておりますよ♡

「交流・学習」：アンブレラ種としてのクロツラヘラサギを知って親しんでもらうためにクロツラヘラサギの歌詞と振り付けを考える、クロツラヘラサギ餌取りゲームをイベント時に実施、ラムサールすごろくの制作と実施、ラムサール条約登録の機運を高めるためのバッジ制作（このシリーズ上部にあるロゴをデザインしましたが、それぞれ何の鳥か当ててみてください！）などなど。すでにラムサール条約に登録されている湿地への視察も行っています。

次回、最終回は、当公園で飼育している2羽のクロツラヘラサギのことをお伝えします。

（ロゴの鳥の答えも最終回で）

（つづく）

みんなのひろば😊

自然を愛する人たちが作ったフォークソング



葦の会のミニ講座で、これまで私が歌ってきたフィールドフォークと呼ばれているフォークソングを紹介させていただきました。いつか皆さんと一緒に歌う機会があればいいなと思っています。

50年前にフォークソングのブームがありましたが、ギターだけで演奏できるフォークソングを、一種の文化運動として歌い始めた人たちがいました。岐阜県中津川市の笠木透さんのグループは、この運動に「フィールドフォーク」と名前を付け、キャンプや川下りをして自然の中で遊びながらフォークソングを作り歌って仲間と楽しむことができました。知っている人はあまりいないと思いますが、自然や環境問題等の社会問題をテーマにした曲などにいい曲がたくさんあります。

自然観察公園に来ると、時間がゆっくりと流れるのを感じます。今の社会は、時間の流れが早すぎるような気がします。フィールドフォークの大切にしていることの一つは、「手作りのものを手渡して」届けるところにあります。自然観察公園が育てた、手作り・手渡しの紙芝居とフォークソングのコラボができればと思っています。

(T.O)



活動紹介

= いちばん楽しい観察会！ =

「夏休み早朝観察会」は今夏の異常な暑さと降雨確率にヤキモキしながら7月23日（土）の開催日を迎えました。暑いながらも薄曇りの天候で幸いでした。今年は例年とは違うルートで園路を進み、東屋を抜け草地広場で大型虫メガネを片手にバッタの観察をしました。



チョウドコー？トンボどこ？

その後園外に移動し、昆虫採集場所でのメインイベントとなりました。いざ出陣と捕虫網と虫かごを持ち勇んで現場に入ったものの、なぜかその時間帯にチョウやトンボの姿が少なくチョッとばかり期待外れ。それでも例年より10分増しの採集時間をめいっぱい楽しみました。冷たいアイスのおやつタイムの後、涼しい展望棟で半世紀前の干拓の話聞き、レンジャーさん監修の5問のクイズを解いて無事に観察会の終了となりました。「今までの観察会の中で一番楽しかったー！」の感想に嬉しい思いを頂いた葦の会の面々でした。



草地広場でバッタ捕り



この虫何かな？



展望棟で干拓の歴史を聞く

= ミニ講座でコンサート♪ =

会員の勉強会として始まった月初めのミーティングのあとのミニ講座は順調に回を重ねています。「公園の樹木の話」「ミツバチと花の関係」「著作権とプライバシー保護」「企画書の作り方」「煎茶の作法」「神社参拝の仕方」など、内容は多岐にわたります。この8月は「自然を愛する人たちが育てたフォークソング」と題した、会員Oさんのギターの弾き語りを楽しみました。今月号の「みんなのひろば」では、Oさんのフォークソングに対する思いを書いています。

<俳句教室 最多選句>

・鈍色の湖をたたきて梅雨燕
道子

・葦の蔓あちこち垂れて地を探す
恵子

7月

8月

= ふれあいまつりに来てね (^^)/ =

例年焼き芋が人気の「ふれあいまつり」、今年は10月30日（日）9時からの開催です。外遊びや館内企画など、皆さんに喜んで頂ける計画を「思考&試行」中の葦の会です。おむすびやコーヒー等もあります。好天のもとで心地よい秋風を体感できる一日であることを願いながら皆様の来園をお待ちしています。

<編集後記>

極度の暑がりなので、この夏はほとんど一日中クーラーを付けっぱなしで家に籠っていました。精力的に鳴くツクツクボウシに叱咤激励されているうちに、気が付けば秋の気配…？ 虫の大合唱も聞こえてきました。早く涼しくな～れ！
(nimu)